

光と緑の風通信

発行/2021年3月1日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

節 目

看護学部長 坂本 祐子



明日は冬至という日に、“南瓜”と“柚”をテーブルの片隅に置き、「3月に卒業式が出来るのだろうか」と自問自答しながら、この原稿を認めています。

日本には、春夏秋冬祭事があり、私たちはそれらから季節の移り変わりや健やかな成長を感じ、祝って来ました。教育機関にとり“入学式”と“卒業式”は、大切な祭事になり、本学では入学生・卒業生一人ひとりを呼称し、大学に迎え入れること、大学を卒業することを許可しています。皆さんの「はい」は、看護学を学び始める覚悟、看護学の礎を学び終えた証であると言っても過言ではないと思っています。令和3年3月、看護職のスタートラインに立つ皆さんの「節目」の卒業式を、どのような形式であれ挙行できればと思っています。

4年生の皆さんは、公私ともに自粛が求められ、窮屈さと先の見えない不確かさの中での学生生活最後の1年を過ごしました。「4年生の楽しい思い出なんてない」と言う学生さんもいるかと思います。高齢者看護の講義の際、「出来なくなったこと・失ったことだけを注視するのではなく、出来ることや強みを探して」というお話を幾度かしました。この1年の中にも、出来たこと・良かったことがあったかと思います。それらを見つけ、大切に、糧に、看護職の第一歩を歩みだしてほしいと願っています。いつでも遊びにきてください。 (さかもと ゆうこ)

新たなスタートライン

看護学研究科長 高橋 香子



看護学研究科修士課程修了生の皆様、課程修了おめでとうございます。学位記を手になされて、今どのようなお気持ちですか。本学修士課程の扉をたたいた時の思いは十分かなえられたでしょうか。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響は、人々の身体だけでなく心のありようや、人と人とのつながりの分断など、あらゆる面に波及し、看護が直面する課題も複雑さ、多様さを増すばかりです。諸課題の解決における看護の役割はとて大きいと思いますが、課題解決のためには、看護以外の人々と協働し、チームや組織の一員、一翼として看護の役割を果たすことがこれまで以上に求められています。他者との協働には、対話を通じた相互理解が不可欠なのは言うまでもありませんが、皆さんは、一連の研究活動を通して、論理的に思考し、伝えるための説明力や表現力、人を動かす説得力も学ばれています。その力を存分に発揮いただきたいと願っています。

「学位記授与」は終わりの証ではなく、皆さんが新たなスタートラインに立ったことを示しています。それぞれが進む道で、多くの人々、先輩や同僚、仲間たちが皆さんを待っています。大学院で備えた力を発揮し、あるいはさらに磨きをかけ、ご活躍されることを期待しています。 (たかはし こうこ)



大学生活を振り返って

看護学部4年 岩崎 桃子

大学に入学してからあつという間に月日がたち、卒業を迎える年になりました。4年間の大学生活を振り返ると、充実した中身の濃い学生生活だったと思います。特に、学部や部活動、アルバイトを通してさまざまな人と出会い、交流できたことが私にとって大きな財産になりました。信頼できる仲間とともに看護を学ぶことができ、幸せだと感じています。学生生活において経験したすべての物事が、私自身を成長させてくれたと感じ、関わってくれたすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



大学院生活を振り返って

大学院看護学研究科2年 菅野 康子

大学院に進学することを決めたのは、職場の上司にその選択肢が自分にもあることを聞いてからでした。自分が大学院で勉強しなすことへの戸惑いはありましたが、いざ、入学を決めたらあつという間の月日が経ち、修士論文のまとめに入っているところです。(この贈る言葉が載る頃は、無事に卒業を迎えられていることを切に願うばかりです。)



贈る言葉



卒業生の皆さま、 ご卒業おめでとうございます。

看護学部3年 五十嵐 ちひろ

思い返せば3年前、先輩方が入学式で花道を作って歓迎してくださった事が、昨日の事のように思い出されます。月日が過ぎるのは早いもので、先輩方の卒業がまだ信じられず、とても寂しく思います。

私たちは今まで、勉強をはじめ、部活動や学校行事を通して、先輩方の背中を見て多くの事を学ばせていただきました。中でも今年は、コロナウイルスの影響で生活が大きく変化し、看護学生としての在り方について多くの事を考えさせられました。このような状況の中でも、先輩方が努力し続けている姿に感銘を受けました。先輩方の教を胸に、これからは私たちが最高学年として努力を怠る事なく、先輩たちと共に看護の道を歩んで行きたいと思っています。



修了生の皆様へ

大学院看護学研究科1年 大槻 真子

修士課程修了おめでとうございます。修士論文を書き上げるまでの長く険しい道のりに気付きつつある今、それを成し遂げ、晴れて卒業の日を迎えられた先輩方の偉大さを改めて実感しています。

この1年で、生活様式や私達の価値観など多くのものが変化しました。私も、例年とは大きく異なつたかたちで始まつた大学院生活に不安を抱えていました。そのような中、どんな困難にも強くしなやかに立ち向かい、信念をもち研究に取り組まれる先輩方の姿に励まされ、勇気をもらいました。世界中で変革がもたらされたこの時代に、改めて看護の本質と向き合えたことは、とても意義のあることだったと思います。



在校生から...

実習を通しての学び

【領域別実習】母性看護学実習



母性看護学実習での学び

看護学部3年 堀金 奈々美

私は、家族を含めた母親の精神的サポートが大切だと考えます。母親は妊娠による身体変化に順応するだけでなく、心理的には妊娠を受容して、胎児との愛着を形成し、家族への子どもの受け入れを準備し、出産に備えるため、母親への一つの声かけによって不安を軽減したり、悩みを共感したりするような関わりが必要だと考えます。

また、母親が分娩を肯定的に受け入れられるように、励ましや慰めの声かけ、母親を一人にしないこと、安心できるような環境をつくる必要があると考えます。そして、母親の思いをよく聴くこと、画一的な指導ではなく十分な正しい情報の中で母親自身が選択でき、その選択を尊重したケアを行うことが必要だと考えます。

一人ひとりの希望や退院後の生活に合わせた保健指導など個別性のあるサポートが必要だと考えます。(ほりかね ななみ)



健康障害をもつ子どもの看護学実習で学んだこと

看護学部3年 柴田 裕唯

私が受け持った患者は4歳の男児で、心臓の手術のために入院しており、その術後のケアに関わりました。創部の消毒の際、恐怖や不安で啼泣し体動が激しく身体拘束を余儀なくされている男児の姿を見てショックを受けました。

私にできることは何かと考え、普段受けている創部を消毒する処置と同じ方法を男児に人形を用いて実践してもらい、母親を交えて3人で遊びながら処置の必要性を理解してあげました。



慢性疾患をもつ人への看護学実習を通しての学び

看護学部3年 宗像 美咲

今までの実習では情報収集のために会話をしなければ、と思いがちでしたが、それが全てではないという今までの実習で実感できました。

初めは患者さんとのコミュニケーションが難しくなつたのですが、関わりを工夫することで患者さんとの関係が深まり、手助けがしやすくなりました。患者さんと手を重ねることで、言葉がなくなるともそばに居

ることを伝えるなど、コミュニケーションの方法は会話だけではないと気づきました。コミュニケーションをとることができた時間は僅かしかありませんでしたが、その短いかかわりの中でも、帰り際に「残念だ」と名残惜しうに手を握ってもらえる関係形成ができ、とても嬉しかったです。

今回のような関わりを学べた経験が、今後の実習に活かしていきたいです。(むなかた みさき)



急性期にある人への看護学実習での学び

看護学部3年 小野田 佳乃

急性期の実習では、周手術期の患者さんと日々関わりながら、対象の個別性を尊重した看護介入とは何かを学びました。

急性期の著しい状態変化を捉えながら、家庭での役割や生活習慣、職業などの社会的側面を含めて対象を多面的に理解し、どのような介入が必要かを考え実践することが、個別性のある看護を提供することができるとは思いません。(おのだ よしの)



精神の健康障害をもつ人への看護学実習で学んだこと

看護学部3年 町田 ゆい

精神障害を持つ患者さんに対し、はじめは怖いというイメージを持っていた。

家族内で何とか解決しようと考え、誰にも相談できず、その悪循環により本人の症状が悪化してしまうのではないかと考えた。

しかし、実際に関わり合う中で、人のことを気遣える優しい方が多く感じました。確かに、大声をあげて叫んでいる方もいたが、それは何らかの幻聴や幻覚によつて患者さん自身が苦しんでいるということに気がついた。そういった負のイメージが世に広がり精神障害を持つ方々に対しての偏見が生まれてしまうのだと思つた。だからこそ、家族は

地域の理解を得ると同時に、家族の理解も得て家族と本人が安心して治療を受けられるように家族もいくことの大切さを学んだ。また、患者さんが思いを表出できるように信頼関係を築くことの大切さも学ぶことができた。(まちだ ゆい)

実習を通しての学び

《看護学実習》



《看護学実習》基礎看護学実習Ⅰ

実習を通しての学び

看護学部1年 小野 陽子

今年の実習では、様々な境遇に置かれている対象の方をどう理解し、どのようなサポートをしていけるかをグループワークやレポートを通して考える実習を行いました。

多様な状況に置かれている対象の方の事例を見ていく中で、相手に積極的な関心を向け、身体的・精神的・社会的側面から理解し、人それぞれに合ったサポートをしていくことの難しさを実感したと同時に大切さも学びました。また、相手の健康状態の多様性、現在の生活やこれまでの人生の多様性を理解し、相手の視点で物事を捉えることの重要性も実感できました。

例年通り対象の方と実際に関わらせていただく実習を行うことはできませんでしたが、これから看護師として対象の方と関わっていく中で何を意識し大切にすべきかを考え、見つめ直す良い機会になりました。今回学んだ新たな視点を忘れる事なく次の実習に活かしていきたいです。(おの ようこ)

《看護学実習》基礎看護学実習Ⅱ



看護学部2年 松浦 和花

基礎看護学実習Ⅱを通して学んだこと

今回の実習は初めて実際の病院で行った貴重な機会となり、非常に充実した実習となりました。

本実習で常に意識していたことのついでに傾聴があります。これまではそれほど重要と考えていませんでしたが、患者さんの経験や思い、療養中に感じていることなどを知った上で受け止めることこそが傾聴であり、一つの看護の形であり、その先の援助につながるのだと学びました。入学以降絶えず学んできたことですが、実際のベッ

ドサイドに立ったことで初めて気づくことができました。またご家族への病状説明にも立ち会わせていただく事ができ、医療者に対する信頼や責任にどれほどの重みがあるのかを感じました。学生生活は早くも折り返しとなりますが、今回の経験を糧に療養されている方の環境や生活を少しでもより良い方向へ援助できるように看護を目指し、これからも様々なことに努めていきます。(まつうら のどか)

《看護学実習》地域看護学実習



看護学部2年 鈴木 芽衣

地域看護学実習での学び

看護学部2年 鈴木 芽衣

今回の実習は看護学部2年生にとって初めての保健師の実習であり、授業で学んだ知識が明確になった実習でした。

私は、県北保健福祉事務所での実習をさせて頂きました。地域の健康診断の見学をさせて頂いたり、実際の保健師のご指導のもと地域包括ケアシステムの演習を行い、とても貴重な経験となりました。これらの経験から、保健師は対象が暮らしたいと思う場所であるように、安心して生活できるように、適切な

機関やサービスを提供することが求められることを学び、保健師と関連職種との連携の重要性を理解しました。また、保健師は健康に関心のない対象にもアプローチしなければならぬことから、対象の個性を理解し、社会的な知識を幅広く身につける必要があると改めて実感しました。今回の実習で得た知識を活かし、保健師として地域に貢献できるように、さらに学びを深めていきたいと思えます。(すずき めい)

《看護学実習》高齢者への看護学実習

リモート下での高齢者への看護学実習

成人老年看護学部門 齋藤 史子

新型コロナウイルスの影響で、今年度は臨地での高齢者実習(訪問看護・病院)を断念しリモートでの代替実習となりました。訪問看護実習では、自作の映像に合わせて教員が高齢者、介護者、施設スタッフや訪問看護師役となり、アドリブで訪問場面を再現しました。学生からは「実際に実習に行っているような感覚」「先生方の演技もリアルで楽しかった」と多くの感想が寄せられました。病院実習では、患者の様子を毎日伝え、看護を展開しま

した。他にも、高齢者医療の現場で活躍されている医師、訪問看護師、退院支援看護師、理学療法士からご講義を頂きました。学生は「高齢者を見る際の重要な視点について学ぶことができた」と感想を述べていました。初めての試みで課題もありましたが、どのような状況でも熱心に学ぶ学生の姿勢により、実習目標が達成できたのではないかと思います。(さいとう ふみこ)



《看護学実習》地域における看護学実習

リモート下での地域における看護学実習

地域・公衆衛生看護学部門 古戸 順子

4年生前期で履修するこの実習は、本来、市町村に出向き保健師活動への参加を通して学ぶことになっていました。しかし、実習中止、ZOOMでの代替学習になり、保健師の姿を見ずにどう学んでもらうかが大きな課題でした。そこで、実際の実習と同様の学習となるように、実習予定市町村の健康問題を調べ健康教育や保健事業を企画したり、子どもから高齢者まで幅広い対象者に合わせた保健師活動の根拠や方法、関係機関との連携につい

て、映像や患者さんのブログ、教科書や文献を用い、課題を調べ、考察するという内容としました。集中して取り組める様に毎日13時には、全国の方言を用いたご当地ラジオ体操の音声を流し一緒に身体を動かしました。3週間という長い期間でしたが、良くと頑張りつくれた4年生の皆さんに、心からエールを送りたいと思えます。(ふるんど じゅんこ)



卒業生近況報告



看護師 白石 桃子

近況報告

看護師2年目になり、1年目と比べて業務を任せられることやより主体的に患者さんと関わる機会が多くなりました。まだわからないことや初めて経験する場面も多いですが、先輩方にフォローしていただきながら働いています。また、先輩ができたことで、これまで以上に周囲に目を配り自分に出ることは何か考えて行動するようになりました。

看護師の仕事は体力的にも精神的にも大変なことは多いですが、患者さんが元気になって笑顔で帰っていく姿を見ると、関わってよかったなと嬉しく感じます。休みの日には友達と出かけたり趣味の時間を過ごしたりして、オン・オフを切り替えて生活するよう心がけています。

これからも日々精進し、頑張っていこうと思います。(しらいらいし ももこ)



助産師 紺野 真由

入職して

私は4月からいわき市の病院で助産師として働いています。

実際に現場に出て様々なお産に関わらせていただき、改めて同じお産はないことを実感し、赤ちゃんとお母さんの生きる力に励まされることも多いです。そしてお産の瞬間だけでなくその後の育児支援など母子の持つ力を引き出すことができるよう先輩からアドバイスをいただきながら業務にあたっています。

また、現場では若年、高齢、産後のサポート不足などによるハイリスク妊産婦も多く、改めて地域の保健師との連携の重要性を感じています。

学生時代の学び、経験は卒業後活かされる場面が多々あると思います。例年とは大きく異なる状況ですが、今しか経験できないこの時間を大切に頑張ってください。(こんの まゆ)



保健師 石橋 磨侖

社会人1年目のいま

こんにちは。私は、福島市保健所健康推進課で保健師として働いています。

健康推進課の中でも、地区担当制で、地域の健康づくり事業に携わっています。母子保健分野では、乳幼児・未熟児訪問、健康相談、依頼の健康教育を行っています。成人・高齢者保健分野では、健康教育や特定保健指導対象者を中心とする家庭訪問を行っており、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方と関わらせて頂いております。また、福島市は中核市であるため、新型コロナウイルス対応もしています。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、変則的な事業になっています。ですが、地域に向いた際には、住民と話す機会を大切に、地区活動を安心して行えるように、新型コロナウイルスの正しい情報をお伝えすることを意識しております。

業務内容は多岐にわたり、忙しくもありませんが、毎日学ぶことが多く充実しています。学生生活はスポンジのように知識を吸収する時期でもあるので、良く学び、良く遊び、有意義な学生生活をお過ごしください。(いしばし まゆ)

第71回 解剖慰霊祭が執り行われました

第71回解剖慰霊祭が、去る令和2年10月28日に本学講堂で、コロナ感染対策を充分に行ったうえで、執り行われました。今年度の慰霊祭には、ご遺族の方々や実習を行った看護学部学生など206名のご参列を頂き、学部学生の教育、学術研究の進展のためにご献体頂いた241名の御霊のご冥福をお祈りさせて頂きました。241体の内訳は、学部学生がかかわった系統解剖73体、さらに病理解剖33体、法理解剖135体でした。本学部からは実習を行った1年生の代表と学部長らが参列して献花や黙祷を捧げました。

(太田 昌一郎)





充実した日々

基礎看護学部 准教授 木下 美佐子

私は、5年前に看護学部に着任しました。着任前は国立病院の看護部長や国立病院附属看護学校の教育主事の任にありましたが、大学の勤務は初めてでした。

大学では研究者としても期待されることから興味のある分野の研究継続を思い、福島県立医科大学大学院医学研究科の博士課程に入学しました。昨年無事卒業でき、博士の学位をいただくことができました。この年

退任後は医学部の衛生学・予防医学講座の博士研究員として籍を置くことになり、研究を継続していく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

(きのした みさこ)



退職に臨んで

成人・老年看護学部 講師 脇屋 友美子

今年度定年を迎えるにあたり、この光が丘の地についてつれづれと思い返す事柄があります。

1987年(昭和63年)に、大学および附属病院が現在の県庁前であった杉妻町から引越してきました。当時、私は附属病院の手術室の看護師としてその場にいました。それから30年以上が経過し、光が丘周辺は大きくその様相を変えています。看護学部は光が丘に来てから創設され22年が経

(わきや ゆみこ)

第23回 光が丘祭

新進気鋭
~new normal~

第23回 光が丘祭 副実行委員長
看護学部2年 樋口 友香

新型コロナウイルスの感染拡大がやまない中ではありますが、本学では令和2年10月17日に光が丘祭が開催されました。例年とは異なり、新型コロナウイルス感染症防止の観点から本年度より「感染対策局」が設けられ、さらに動画配信という方法で開催することとなりました。

「新進気鋭」をテーマにした今回の光が丘祭には、福島県立医科大学が一体となり、この状況に立ち向かっていくという意気込みが込められています。動画配信では、あらゆる部活動やサークル活動の気迫や熱意が伝わり、実際に体感したような感動さえ感じることができました。

光が丘祭では、看護を学ぶ学生として日頃の感染対策、新しい生活様式、社会との向き合い方を考え、学ぶよい機会となり、貴重な経験をさせて頂きました。(ひぐち ゆか)

CALENDAR

看護学部 カレンダー(予定)

- 3月25日(木) 学位記授与式
- 4月5日(月) 在学生オリエンテーション
- 4月7日(水) 入学式
- 4月8日(木)~9日(金) 新入生オリエンテーション
- 6月18日(金) 開学記念日
- 7月10日(土) オープンキャンパス
- 10月9日(土)~10日(日) 光翔祭

編集後記

学生の皆さんには昨年、授業、実習等では大変ご不便をおかけいたしました。自分も授業そして実習も無事実施でき、ホッとしております。

初めての経験であるオンライン授業、みなさんのリアクションが把握できない中、配信ブースで試行錯誤でしたが、対面授業ではあまりなかった鋭い質問がチャットで飛んでくると、皆さんの熱意が伝わりうれしくなりました。何となく、若き日に憧れたDJの気分、質問に肉声でお答えしました。

最後に、卒業生の皆さん、社会は皆さんを待っています。ご活躍を祈念してやみません。

太田 昌一郎

◆編集委員

- 太田昌一郎
- 高橋 香子
- 井上 水絵
- 佐藤 利憲
- 横山 郁美
- 鹿俣 律子
- 亀岡 康子